

世田谷一家殺害事件

解決願い集会

30日に21年

2000年12月に世田谷区の会社員、宮沢みきおさん(当時44歳)一家4人が殺害された事件の解決を願う集会在18日、J A東京中央千歳支店(同区粕谷3)で開かれた。宮沢さんの母節子さん(90)ら約50人が参加した。事件は30日で発生から21年を迎える。

冒頭で参加者全員で黙とうをささげ、その後、DNA型鑑定を用いた捜査について討論会を行った。事件では犯人のものとみられる



事件の早期解決に向け討論する登壇者ら＝世田谷区粕谷3のJ A東京中央千歳支店で

DNA型や指紋が採取されている。捜査本部がある成城署の元署長の土田猛さんは「DNAから年齢の推定や似顔絵の作成ができる」と述べ、DNA捜査の進展や法整備を訴えた。

集会には、名古屋市のアパートで1999年に主婦(当時32歳)が殺害された未解決事件の遺族の高羽悟さん(65)も参加。「なぜうちの家族だったのか、(犯人が)捕まることによってある程度納

得できる。DNAがある事件は積極的に着手してほしい」と話した。集会後、節子さんは報道陣に「事件から20年以上たつが何の変化もない。少しでも解決の動きをみたい。それだけを思っている」と話した。

←産経新聞

DNA捜査活用呼びかけ

世田谷事件 解決願い討論

東京都世田谷区上祖師谷同区内で「世田谷事件の解決を願う討論会」を開き、地元住民ら約50人が参加した。写真(王美慧撮影)。

討論会には、元警視庁成城署長の土田猛さんと、11年11月に名古屋市の西区的アパートで主婦が殺害された未解決事件遺族の高羽悟さん、世田谷区の保坂展人区長、大原義隆弁護士の4人がパネリストとして参加した。



DNA捜査に焦点を当て、海外ではDNA型から犯人の顔が再現されるなどして事件解決につながっている事例などを紹介。国内でもDNA型鑑定の技術をさらに捜査で活用するために、法整備の必要性を呼び

←東京新聞

最新のDNA型鑑定「活用を」

世田谷一家四人殺害事件の解決を願う討論会が18日、東京都世田谷区で開かれた。パネリストたちは、最新のDNA型鑑定を捜査に用いる必要性を議論した。

宮沢さんの母節子さん(90)や地元住民、殺人事件の被害者遺族でつくる「宙の会」のメンバーら五十人が参加。DNA型をもとに容姿や年代を推定する最新の科学技術を活用した鑑定手法を紹介する動画を視聴した。

討論会では、同区の保坂展人区長や、元成城署長で同会特別参与の土田猛さんがパネリストを務めた。土田さんは「節子さんも高齢となり、時間には限りがある。一日も早い解決を目指し、捜査手法に採り入れてほしい」と訴えた。保坂区長は「先端技術を活用

遺族や住民 解決願い討論会



DNA型鑑定を活用した捜査の必要性を議論するパネリストたち＝18日、東京都世田谷区で

したDNA型の捜査をするには、人権面から法的整備が必要となる。国は専門家の意見を聞いて制度設計するべきだ」と強調した。(山田雄之)

かけた。討論会後、宮沢さんの母、節子さん(90)が報道陣の取材に応じ、「毎日毎日、今日も犯人逮捕の連絡がないと過ごしてきた。事件の解決を見てから死にたい」と話した。